

鑑真の密のお香 1263年ぶりの再現報告

平成29年2月18日 岡山大学にて

薫物屋香樂認定香司 浜村早苗
先史古代研究会 丸谷憲二

浜村早苗様に初めてお会いしたのは、平成28年11月17日です。
その日から、1263年ぶりの鑑真の密のお香・再現計画が始まりました。

岡野進氏の調査報告

- 『熊山遺跡と鑑真和上・秦氏・和気一族のかかわり』に、
- 「鑑真和上と熊山との関連した伝承が残っています。
- 伝説として、昔から香登の人々に語り継がれているのは、「熊山の櫛(シキミ)の良い香りを辿って、大滝山から熊山へと鑑真和上が登山され、大滝山福生寺と帝釈山靈仙寺を建立された。そして、頂上に石積戒壇を設けられた。
- 麓のお寺で櫛のお香を造って、帝に献上され、喜ばれた帝から、香登と記す地名を賜った。
- この縁で唐招提寺の和上御影堂の傍に熊山の櫛の木が植えられている。」と。

大瀧山福生寺福寿院の伝承

- 平成28年11月30日に、大瀧山福生寺福寿院を訪問し、**寺院内に自生している櫛を採取**。比較のために岡山市東区草ケ部の中西厚氏宅の櫛を11月29日に入手。
- 大瀧山福生寺福寿院が大瀧山福生寺の本坊でした。
- 「明治時代、**今から100年ほど前に、唐招提寺から熊山の櫛の送付依頼があった。**
- **現在の唐招提寺の櫛は、その時の櫛である。」**と、祖父から聞いている。
- **香にすると香りが強いのが、熊山の櫛の特徴である。**
- 大瀧山福生寺福寿院
- 則次春賢住職



桫欏は有毒・日本特有の香木

- 花や葉、実、根、茎にいたるまでの全てが毒成分を含む。
- 種子にアニサチンなどの有毒物質を含み、特に果実に多く、食用すると死亡する可能性があり、桫欏の実は植物としては唯一、**毒物及び劇物取締法**により**劇物に指定**されている。
- 中国では莽草、日本では莽草と呼ばれ、**生薬名は莽草(ボウソウ)**である。
- 茎、葉、果実は共に一種の香気があり、**日本特有の香木**として葉を乾燥させ粉末にして
 - ・ 末香
 - ・ 線香
 - ・ 丸香
 - として使用する。

浜村早苗氏の 鑑真伝承の密のお香・再現

- ① 平成28年12月3日に、
生の葉っぱを1.6gの分量に
切って、香りの聞き比べを実施。
同じ香りです。
違いはありません。



- ② 自然乾燥から始まります。
調香部屋にて干しました。
お線香に仕上げるまでには、
一月～二ヶ月ほどの自然乾燥時間が必要。
12月3日より2月10日迄、2ヶ月間自然乾燥。

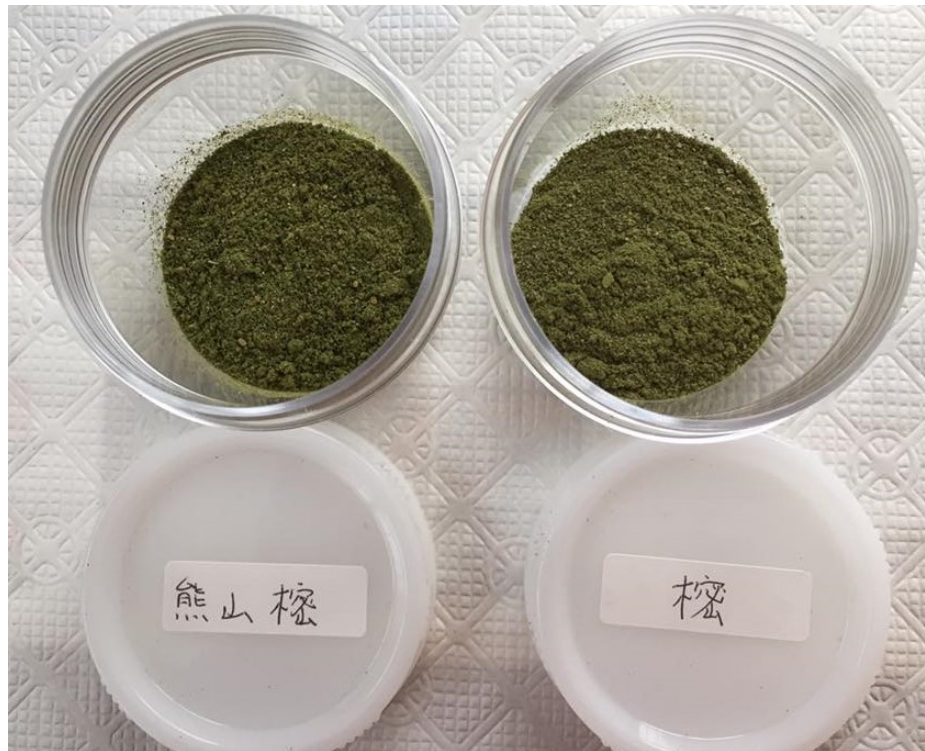


大瀧山福寿院と中西厚氏宅の櫛比較

・ 左 熊山

・ 右 中西宅

- ・ ③ 乾燥状態を確認します。
- ・ ④ 葉を粉末にします。



乾燥した葉を粉末に

- ⑤ 梔(タブノキ)の樹皮と合わせて、作
り上げる天然の密線香です。



梔(タブノキ)は、
クスノキ科の常緑高木です。
その樹皮を粉にし、
線香のつなぎ剤として
原料を線状に固めるために使用。



慎重に水加減をしながら配合

- ⑥ 慎重に水加減をしながら配合して、成型します。
- 梔(タブノキ)の樹皮は、タンニンを含み黄褐色となる。



三角錐の形に、並べて乾燥

粉末の目が粗くて、もっとスムーズにスマートな形にできるのですが、今回はいささか難しい……。三角錐を軸にしながら整える。



岡山大学でのお香の公開

玄関入り外での公開準備中。



1. 熊山櫓のお線香の香りを聞いていただくことになっておりましたが、構内、室内では焚くことができませんので、玄関入口の外で焚きました。
- あいにく風も強くて、炭の着火も悪い中、どうにか熊山の櫓のお線香の香りを聞いていただくことが出来ました。

密のお香の作り方の説明

- 草ヶ部の中西さん宅の密のお香です。普通の密です。
- 講演会では密のお線香の作り方を簡単にお話ししました。
- お線香の作り方は、難しいものではありません。



櫛のお香の作り方の説明

- 熊山の櫛を自然乾燥させることから始まり、完成するまで、さらに燃焼させるまでの過程をお話しました。
- 香りは実際に聞いて頂くのが一番です。



熊山の密のお香の特徴

- ・ 「香にすると香りが強いのが、熊山の密の特徴である。」
- ・ は証明されました。
- ・ 大瀧山福生寺福寿院 則次春賢住職



- ・ 薫物屋香樂認定香司 浜村早苗氏の所見
- ・ 熊山の密の香りは重いです。
- ・ 重量感があります。
- ・ 甘くて重い。
- ・ 香りのパワーも強い。
- ・ 仏教の供香として使われるのも、わかる気がしました。
- ・ さすが、熊山の密ですね。

まとめ

- ① 鑑真の密のお香、1263年ぶりに復活しました。
- ② 「香にすると香りが強いのが、熊山の密の特徴である。」
- 大瀧山福生寺福寿院 則次春賢住職は証明されました。
- ③ 麓のお寺で密のお香を造り帝に献上し、帝から香登と記す地名を賜ったとの伝説は、鑑真渡来は754年であり、香登臣の賜姓は698年であり、明治時代以降の創作です。
- ④ 『唐大和上東征伝』のお香は青蓮華であり密の記録はありません。熊山の密は伝説・伝承です。
- ⑤ 美術散華保存会説では、鑑真和上が奈良へ航路を進めているとき、備中岡山の山地に茂る密の姿を見て、インドの青蓮華に似ていると指摘したのは、何処が似ているのでしょうか。

インドの青蓮華と密

- 明治19年新刻の『和漢 真俗仏事編全』巻二供養部に、
- 「密供佛に密の實は本天竺より来れり。
- 本邦へは鑑真和上の請来なり。
- 其形天竺無熱池の青蓮華に似たり
- 故に此を取て佛に供すると云う。供物義云」と。

- インドの青蓮華

